

ペンタの旗のもとに

作詞作曲 NAOKO

採譜 DEGILE

かがやく ひ かりあび て みなもを ふ ねがかけ る

5 きらめく ブレー ド しなる シャフトへさき がみなも をきりさ く

9 ふいごの い きたかまる こど うきしむわ が てあしよ

13 このむね の たかまりの まま でかけろよゴール ラインまで

17

21 ペンタのはたが ひるがえる ペンタの

25 は た の も と に

- 輝く光あびて水面（みなも）を艇（ふね）が駆ける
きらめくブレード しなるシャフト 舳先（へさき）が水面（みなも）を切り裂く
ふいごの息 高まる鼓動 きしむは我が手足よ
この胸の高鳴りのままで 駆けるよゴールラインまで
- 湖面を吹き渡る風 軌跡（きせき）をさざ波に変える
ブレードの泡を後ろに残して 舳先（へさき）は前へ進んでく
呼吸を リズムを 合わせてゆこう 艇（ふね）の息づかいのように
舵手（だしゅ）の号令は鼓動のように 胸のなかでも響いてる
- 同好（どうこう）集まりて 同胞（はらから）共（とも）に漕ぐよ
オールを握って 岸を蹴って きらめく水面（みなも）にとびだせ
この胸に抱くは五角形 ペンタの旗のもとに
集（つど）えや 笑えや 謳（うた）えや ボートの上は自由席
ペンタの旗が翻（ひるがえ）る
ペンタの旗のもとに

ペンタ軽音楽部

ペンタ数え唄

ペンタフジタ

※ あしけりさんぼんよつこらしよ ペンタペンタの

かぞえうた※ ひとつとせ はるはさくらの
→繰り返し

つるみがわ ぼーとのうーえで はなみかな

ボートでむすんだかぞえうた ひとつのかずだけ

うたがある

※あしけり三本よつこらしよ ペンタペンタの数え唄※

ひとつとせ 春は桜の鶴見川 ボートの上でも花見かな

※※部分

ふたつとせ 夏色みどりの荒川の 水面（みなも）にブレードきらめいて

※※部分

みっつとせ 紅葉きらめく宮ヶ瀬を 眺める暇もありゃしない

※※部分

よっつとせ 冬はエルゴで汗をかく エルゴにゃエルゴの良さがある

※※部分

いつつとせ いくつになってもボート漕ぎ ペンタのシートは自由席

ボートで結んだ数え歌 ひとつの数だけ歌がある